

2025/07/16

第1回JPCOAR Webinar「研究業績データベースと機関リポジトリ」

事例紹介（富山大学）

研究情報管理システム：RIMS（Pure）を
活用したオープンアクセス

富山大学 研究推進部学術コンテンツ課（附属図書館） 林 和宏

富山大学概要

学部 人文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部、
芸術文化学部、都市デザイン学部

大学院 人文社会芸術総合研究科、総合医薬学研究科、理工学研究科
持続可能社会創成学環、医薬理工学環、教職実践開発研究科

教員数：872名

学生数：7947名

附属図書館概要

中央図書館、医薬学図書館、芸術文化図書館

蔵書冊数：1,324,268冊

雑誌所蔵種類数：22,426種類

2025年4月



ヘルン文庫（小泉八雲旧蔵書）

富山大学リポジトリ ToRepo と 富山大学研究者プロフィール Pure

2025年7月

富山大学学術機関リポジトリ ToRepo

- JAIRO Cloud
- リポジトリコンテンツ数：20,069件
紀要論文 6,808件、雑誌掲載論文 1,373件
貴重書 8,28件、博士論文 531件、他



<https://toyama.repo.nii.ac.jp/>

富山大学研究者プロフィール Pure

- 登録対象者：常勤教員 870名
- 学術論文等の研究成果、受賞、研究設備、科研費、公開研究データ、担当授業に関する情報を登録・公開



<https://u-toyama.elsevierpure.com/>

Pureシステムの位置づけ



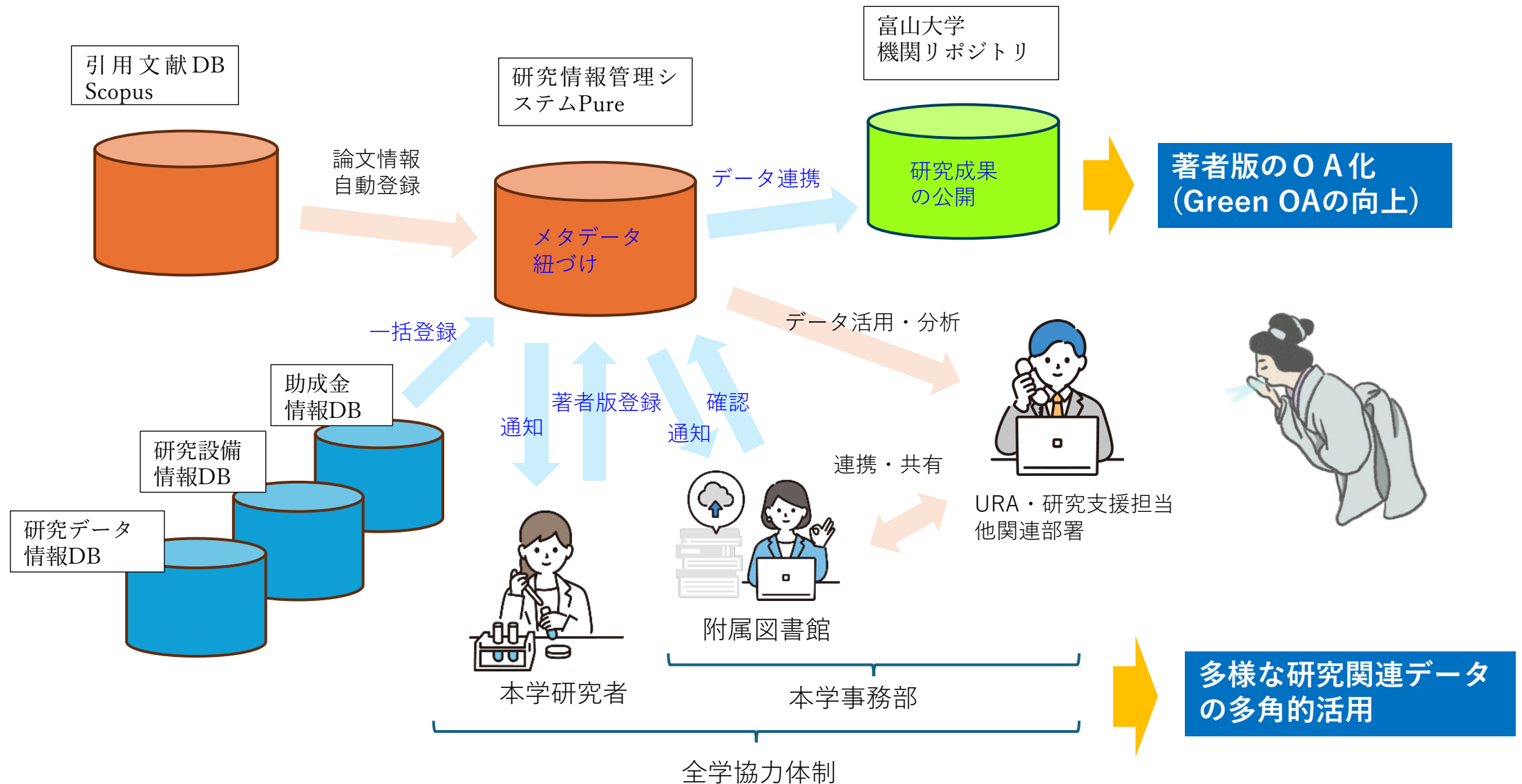
- 研究情報管理システム：RIMS（Pure）としてのPure
 - エルゼビア社が提供するRIMS（クラウドサービス）
 - 海外での運用は様々だが、公開機能は研究者総覧として使用されている
 - Scopusから完全な自動連携で、論文情報をインポートできる
 - 海外では、リポジトリとのデータ連携実績（D-Space等）もある
- 本学でのPure運用（学術コンテンツ課所掌）
 - 他の国内導入機関と同様に、本学でも研究業績データベースとPureを平行運用していたが、2023年に国内で必要な研究者総覧としての要件を満たすように、各種データを研究業績データベースからPureへ移行し、統合して運用
 - 名寄せサービス（PRS）により、Scopus Author IDを統合した上でScopus掲載の論文情報を自動連携で反映・公開
 - Scopus論文以外の研究成果情報は、研究者が各自登録する。researchmap、CiNii、PubMed等からインポート可能

Pure改修内容

- オープンアクセス加速化事業でのPure改修 & 新規登録データ
 - 次の情報とその関係論文を登録し、紐づけ
 - 科研費等外部資金情報(KAKEN data)
 - 研究機器情報(Equipment Monitor)
 - 研究データ情報(Data Monitor)
 - リポジトリ (JAIR Cloud)でPureのデータ連携
- 目的
 - 研究成果情報 (Scopus論文情報、科研費DB等の研究成果情報と関係論文及び研究データ) をPureに集約し、リポジトリにデータ連携し、オープンアクセスに活用する
 - 論文の著者最終稿を公開する場合、研究者はPureに著者最終稿をアップロードし、公開担当者はメタデータ・エンバーゴを確認・修正・補足の上、リポジトリへデータ送付するワークフローを構築する



データフロー図



学術論文等の即時オープンアクセス方針への対応と課題

1. 科研費等外部資金による研究成果で即時オープンアクセスに対応すべきものを網羅的に把握する。

対応 KAKENデータベース等からPureへ研究費情報とその研究成果情報を一括登録

課題 対象研究成果の把握は可能だが、公開状況・エンバーゴを把握するには、KAKENデータベース等の研究成果情報をそのまま活用することは難しいか

2. 上記研究成果に対して、公開状況・エンバーゴ等を把握し、研究者へオープンアクセスに必要な対応を通知する。

対応 Pureで研究成果情報を集約し、対象研究成果の著者（研究者）に対して、必要な通知を行う

課題 研究成果の公開状況・エンバーゴを把握し、必要な対応を通知するために、人の手で確認・作業が必要。作業量の増加に支援体制が追いつくか

3. 著者最終稿あるいは研究データをリポジトリで公開する場合、Pureの該当研究成果情報をリポジトリで活用する。

対応 対象となる研究成果情報をPureからリポジトリに受け渡し、登録・公開（Green OA）を実現する

課題 リポジトリに連携したデータを効率よく登録するためにマニュアルの整備とシステムの調整が必要





ご清聴ありがとうございました

富山大学 研究推進部
学術コンテンツ課（附属図書館） 林 和宏
hayashik @ adm.u-toyama.ac.jp

